

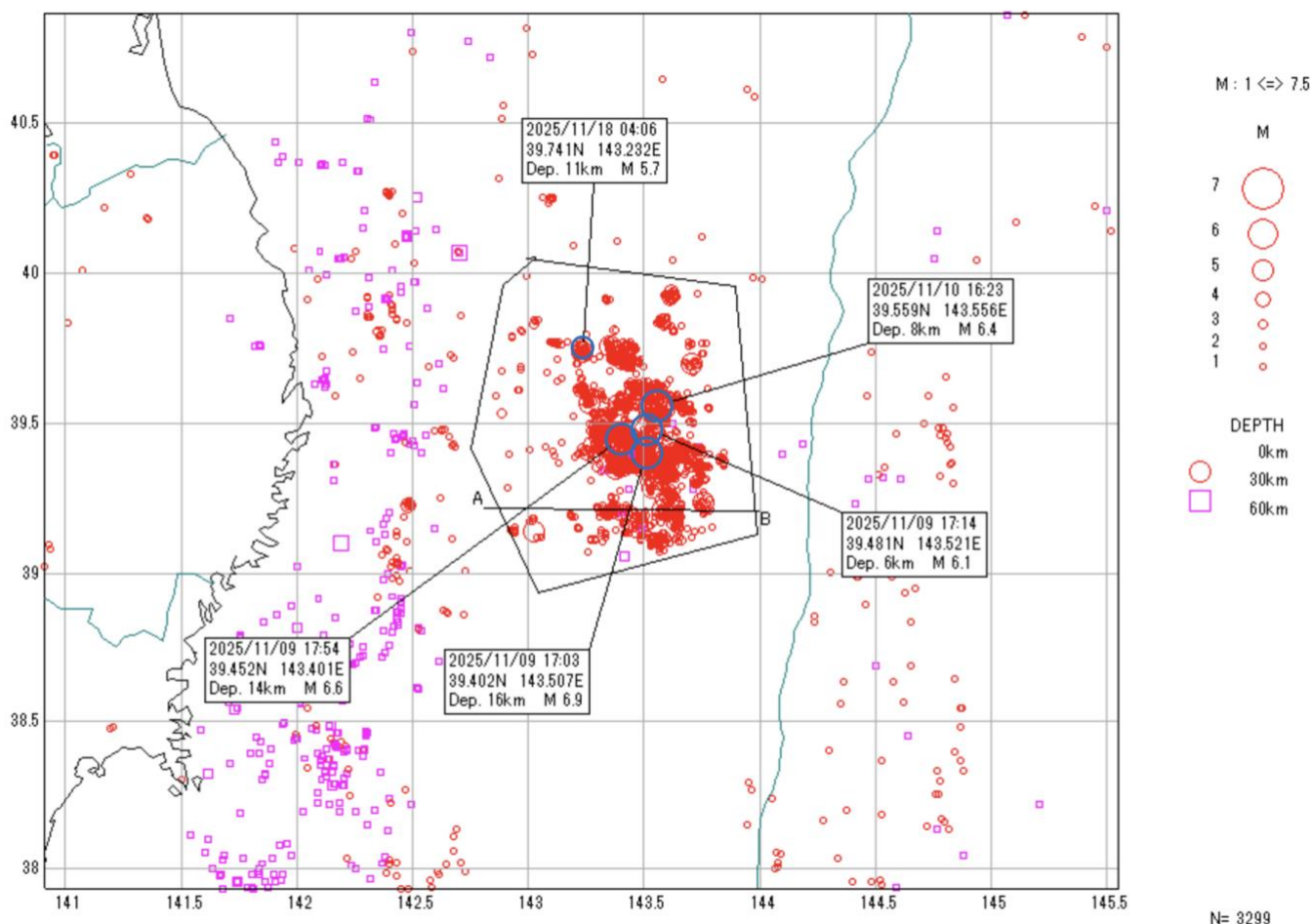
DuMA ニュースレター

2025年11月24日

岩手沖の地震活動のさらなる続報

先週号で岩手沖の地震活動について報告させて頂きましたが、まだ活発な地震活動が続いております。次にお示しする図は11月1日から20日までに発生したマグニチュード2以上の地震をすべて図示したものです。期間中に3,299個の地震が発生しましたが、岩手沖の多角形で囲んだ領域の中で、そのうちの2,734個が発生しておりました。

また図には期間中に発生したマグニチュード6以上の地震4個と11月18日に発生したマグニチュード5.7の地震の発生位置も書き込みました。



上の図で赤色で示した地震は深さ50kmまでに発生した地震、ピンクで示した地震は深さ50kmから100kmで発生した地震です。

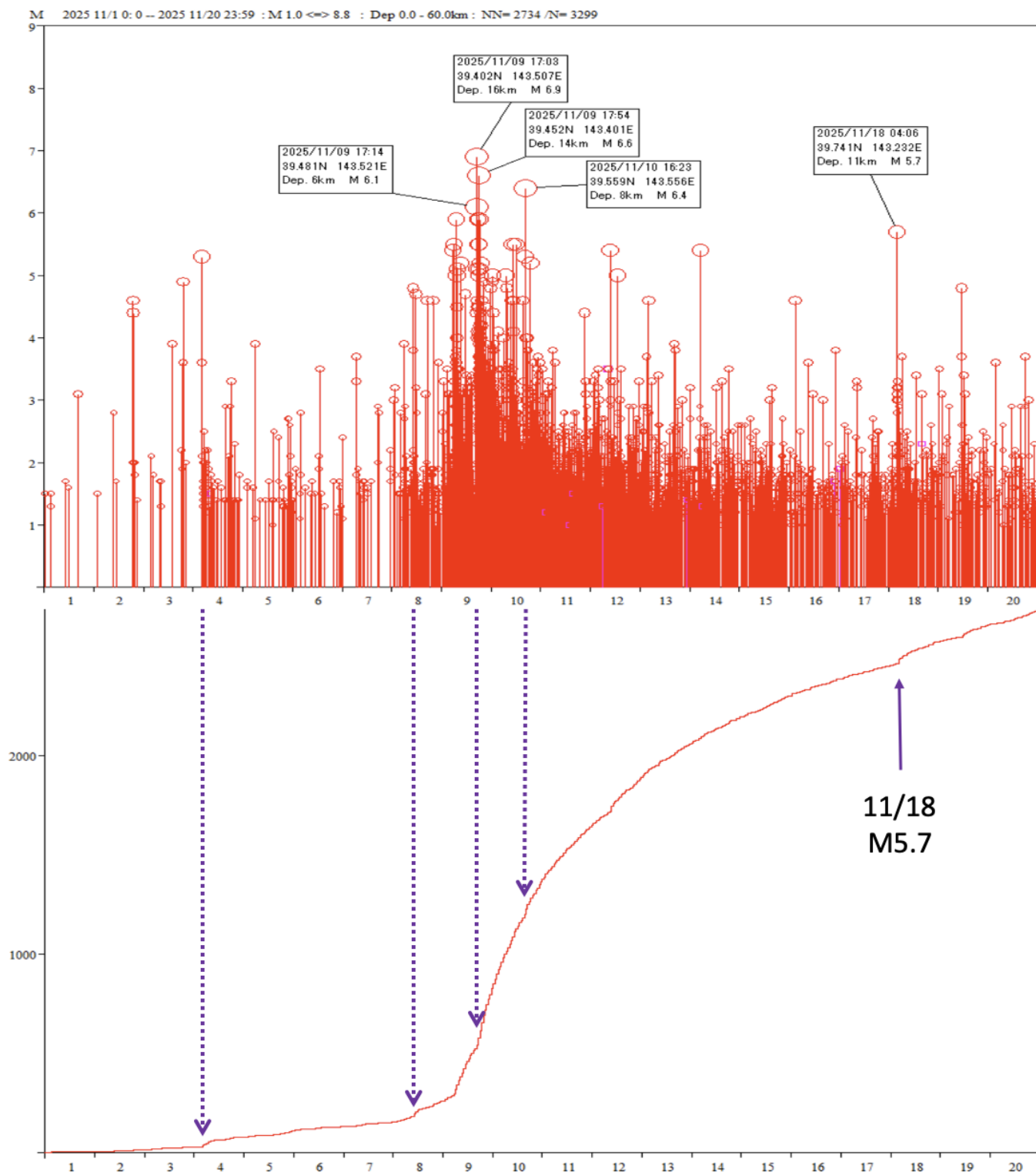
こもし、これだけの地震活動が陸域で発生したとすると震度6強や震度7も記録していたと考えられます。非常に活発な地震活動であるという事を肝に命じる必要があります。そしてその活動は現在も続いています。

今回の領域の近傍では過去にはマグニチュード7を超える地震も1960年、62年、89年と発生していました。また2011年の東日本大震災の余震として、本震のわずか22分後にマグニチュード7.4の地震が発生していました。この3月11日の余震でも津波が発生したはずですが、本震の津波と区別する事はできませんでした。



次にお示しする図は前ページの図でお示した多角形領域の中の地震活動のグラフです。上のグラフが M-T 図と呼ばれるもので、横軸に時間(この場合は11月1日から20日)、縦軸にマグニチュードを図示しています。下の図は地震発生数の積算図というもので、縦軸は期間内に発生した地震をすべて加えたもので、必ず右上がりのグラフとなります。積算数グラフは規模の大きな地震発生により、影響を受ける事がわかります。また今回の活動は実際には11月9日の午前中から活発になり、どの日の夕方に現時点で最大の地震であるマグニチュード6.9が発生した事がわかります。

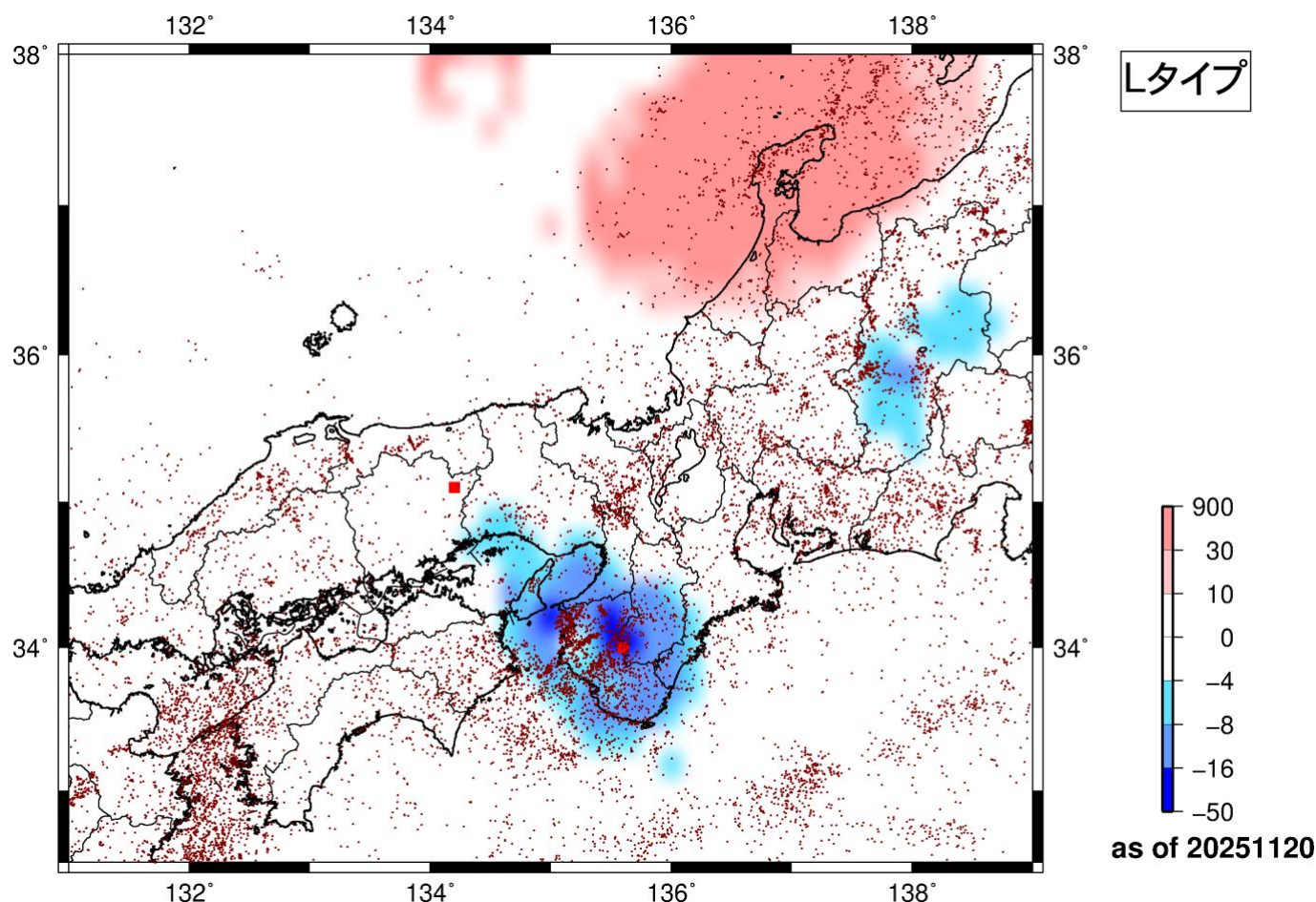
また、まだ活動が収まっていない事もわかります。





東海地方以西の地下天気図®

10月20日のニュースレターに続き、今週は中部・近畿・中国・四国地方の L タイプ地下天気図をお示しします。



前回の報告とパターンは大きく変化していませんが、紀伊半島の地震活動静穏化(青い領域)がかなり拡大している事がわかりました。

長野県の静穏化異常は面積も小さく、まだ深刻なものとは考えておりません。10月20日のニュースレターをもう一度ご覧いただく事をお勧めいたします。